

若者が地域を選び、

地域が未来を育てる

今回が北鹿新聞コラム「北鹿で活躍する修了生たち」の最終回になります。今年度も当校と鷹巣技術専門校の修了生や教育訓練を紹介しながら、北鹿地域で活躍する若者たちの姿をお伝えしてまいりました。

北鹿地域の大きな課題は、人口減少とそれによる人材不足です。それにこたえるべく当校では、学生たちに地元企業の魅力や働く価値を伝えながら就職支援を行っています。多くの修了生が秋田県内に就職しますが、近年の都市部企業との待遇や企業規模に魅力を感じ、首都圏の企業を志望する学生もいます。

それでは、地元で就職した修了生たちは、何を考え、なぜ地元で働くことを選んだのでしょうか。その理由を探るべく、今年度のコラムのサブテーマを「若者はなぜ地元で働く道を選んだのか」としました。

私は日頃から企業訪問や会議などで北鹿地域を回る機会です。興味深かったのは、誰一人として「地元だから仕方なく就職した」とは語っていないことでした。むしろ、「地域の役に立ちたい」「地元企業の高い技術力に魅力を感じ」「地域にいながら全国や世界と関わる仕事したい」といった前向きな理由から、地元就職を選んでいました。そのえる技能・技術を持つ企業が

が、その度に、当校の修了生がさまざまな分野で活躍していることを実感しました。昨年度のコラムでも紹介しましたが、修了生たちは地元企業や団体の第一線で活躍し、地域社会を支える重要な担い手となっています。

今年度の連載で紹介した修了生も実に多彩でした。世界市場を相手に活躍する機械メーカーの工場長、自治体や地域組織の情報システムを支えるIT技術者、大型木造建築物を支えるCAD技術者、鉄道や水環境を支える百年企業の管理者、地域のライフラインを守る設備技術者など、それぞれが専門性を活かしながら地域社会に貢献しています。

の言葉からは、当校で習得した技能・技術をさらに磨き、企業や地域で生かしたいという思いと、技術者としての誇りと地域への愛着が感じられました。

このことから、若者が地元で働く道を選んだ理由の一つは、「地元にも挑戦できる舞台があり、やりがいのある仕事があるから」ではないでしょうか。

一般的に、全国・世界を相手にする仕事や最先端の技術は都市部に集中していると思われがちですが、実際には、北鹿地域にも国内外と渡り合える技能・技術を持つ企業が

は、生き生きと活躍しています。

そしてもう一つ大切なと感じたのは、「人とのつながり」です。多くの修了生が、先輩や同僚、顧客、地域の方々への感謝を語っていました。企業は、基本的には人から人へ受け継がれます。職場には面倒見の良い先輩や上司がいて、身近には落ち込んだ時に相談できる同僚や家族がいます。そして、励ましや感謝の言葉を伝えてくれる顧客や地域の方々がいいます。北鹿地域には、人と人とのつながりがしっかりと存在しています。それが若者の成長を支え、一人前の技術者へと育てていくのではないのでしょうか。

また、今年度の連載では鷹巣技術専門校の取り組みも紹介しました。ものづくり体験や地域向けイベントを通じて、子どもたちが技能・技術に触れる機会を提供しています。未来の技術者は、こうした小さな興味や体験から育っていき、子どもの頃のものづくり体験は大切だと考えています。

タイミングよく、当校でも9月26日(土)に「さんぽうフェス」を開催します。ものづくり体験教室(ゴム鉄砲、猫ライト、ラックの製作など)やオープンキャンパス(キャンパスツアー)など、子どもから大人まで、どなたでもお楽しみいただける催しです。詳しくは当校ホームページをご確認ください。

私たちは教育訓練機関の役割は、単に学生たちに技能・技術を教えることだけではありません。学生一人ひとりが自らの可能性を見つけ、多くのひととつながり、地域や社会を支える人材へと成長できるように手助けすることです。

多くの若者が地域の魅力に気づき、この地域を選び、未来を切り拓いていく。そして、地域が若者を見守り、育て、成長を支えていく。その積み重ねが次世代の北鹿を創る力になると信じています。

(おわり)

東北能開大秋田校 能力開発部長

徳田 孝明



今年度紹介させていただいた当校の修了生たち

多数あり、ものづくり、IT、建設、環境、インフラなど多様な分野で専門性を発揮できる環境が整っています。今回紹介した修了生たちも、それぞれの職場でやりがいを見つ



AKITASUYOKUTAN

Instagram
ラムの二次
元コード



東北能開大秋
田校ホームペ
ージの二次元
コード

2026
東北能開大秋田校 鷹巣技術専門校

北鹿で活躍する修了生たち

～若者はなぜ地元で働く道を選んだのか～ 12